当 面 の 技 術 対 策（畜産編）

令和５年７月１５日
発行：ゆとりみらい２１農業推進協議会指導部会

牧草の夏更新のポイント

（１）　除草剤を根まで浸透させる

地下茎イネ科雑草（シバムギ・リードなど）は茎葉が枯れても根が生きていると再生してしまいます。グリホサート系除草剤は茎葉から吸収されて、根に移行して枯らします。除草剤を散布の際は、以下の点に留意願います。

① １番草収穫後、**イネ科雑草の草丈が 40cm 程度になった頃**に散布する

② 除草剤散布から耕起作業まで **10 日以上あけて**、薬剤を根まで浸透させる

（２）有効積算温度の確保により越冬性を高める

秋遅くには種した新播草地は越冬性が悪く、追播や再播が必要になる場合があります。有効積算温度とは種晩限を考慮した作業が必要です（図、表）。

図. 更新のスケジュール

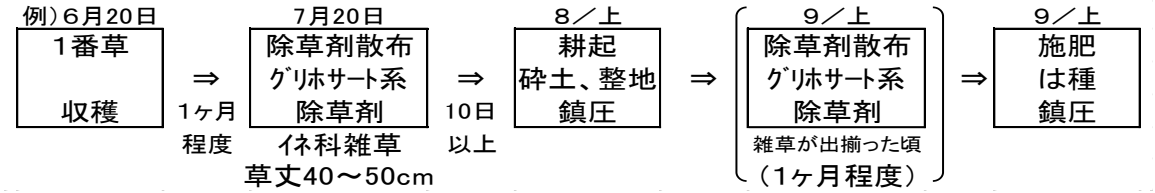

表　草地の有効積算温度とは種晩限について

	必要な有効積算温度	チモシーの草丈（目安）	アルファルファの草丈（目安）	は種晩限
チモシー単播	673℃以上	16cm 程度	９cm 程度	９月上旬
チモシー主体アルファルファ混播草地	371.7℃以上	７cm 程度	―	８月中旬

※　有効積算温度は、は種翌日～10 月末までの積算温度です。